



Amenity News
アメニティニュース

台湾インターンシップ受入が IDEC横浜の支援事例に掲載

株式会社アメニティが取り組む台湾インターンシップ受入事業が、横浜企業経営支援財団(IDEC横浜)の支援事例として紹介されました。同財団は横浜市内の中小企業を支援する公的機関で、今回の掲載では、6回にわたり台湾ITI*の学生が日本語やビジネスを学びながら現場で実践的な経験を積んでいる点が評価されています。研修後も連絡が続くなど、国境を越えた交流が育まれており、こうしたつながりが台湾との関係をさらに近いものにしてきました。その広がりの中で、台湾初のアメニティネットワーク加盟店としてスーパーコープ社を迎えることにもつながっています。これからも世界の誰もが安全に快適に過ごしたいトイレを創造していく事業を通じて、教育を考え、経済の発展を支え、健康問題に挑戦しながら、環境を守る活動を推進してまいりたいと思います。

※台湾ITI(国際企業人材育成センター:International Trade Institute)台湾経済部の委託を受け、台湾貿易センター(TAITRA)が運営する、国際ビジネスの即戦力人材を育成する教育機関。

日本水循環文化研究協会

第14回 **リレーコラム**

特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは…本コラムでも取り上げられている尿尿に関わる文化や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及、継承を目指して活動しています。2022年日本下水文化研究会から改組しました。



今回もおなじみ、総合トイレ学研究者の森田英樹さんにお話を伺いました。

“馬糞石”のはなし

江戸時代の歌で「四谷新宿馬糞の中に、あやめ咲くとはしおらしゃ」というものがあります。日本橋からの最初の宿場である内藤新宿のようすを唄ったものです。現在の新宿1〜3丁目一帯になります。交通の要衝である内藤新宿には馬の落とし物も多かったようです。「あやめ」とは旅籠で働く女性を指しました。

掲載した浮世絵は、歌川広重の最晩年の作「名所江戸百景」の「四谷内藤新宿」と題する作品です。現在の伊勢丹付近から新宿通りを四谷方面に向いていると考えられています。大きな馬の尻と足元に散る馬糞、奥行き感を出す地面が画面の殆どを占める強烈な構図で描かれています。左手には「あやめ」に見送られているようにも見える人物も描かれ、活気あふれる宿場の様子が伝わってきます。馬糞は貴重な燃料や肥料として使用され、馬糞拾いが落とし物を拾い集

めていたため清潔は保たれていました。さて、このように有価物であった馬糞ですが、これが馬糞石となるとその価値はさらに上がります。かつてTV番組で、300万円の鑑定額が付けられ仰天しました。本コラムの読者の方は、以前「糞石」を御紹介しましたので「なるほど馬糞石とは馬のクソが化石になったものか」と思われたかも知れませんが、しかし残念ながら違います。江戸中期の百科事典である「和漢三才図説」には「鮭苔あるいは平佐羅婆佐留の名称で紹介されています。馬や牛などの内臓の中にでき、大きさは栗の実から鶏卵程度、色は白く石のようで石で無し、骨のようで骨で無し、とあります。つまり動物の体内にできた結石のことです。味は甘辛く、ひきつけやできもの治療に効果があり、解毒や天然痘の薬としても使用されたようです。なんと雨乞いにも効果があったようです。

こんな事を考えながら迎えた午年の新年でしたが、近年の「年賀状じまい」の風潮で、干支図案の賀状を頂くことも減ってしまいました。またひとつ、日本の文化が失われて行く寂しさを感じます。



名所江戸百景「四谷内藤新宿」筆者蔵

トイレ歳時記 5月

5月5日は「世界手指衛生デー」。医療現場での感染対策を強化するため、手洗だけでなく消毒や適切な手指ケアまで含めた「手指衛生」の重要性を呼びかける日です。世界保健機関(WHO)が定めており、由来は両手の5本指から。外出が増える初夏は、私たちトイレ後の手洗いに加え、手指を清潔に保つ意識を高めたい季節。身近な習慣が、自分と周りを守る小さな衛生行動につながります。

編集後記

最近、尿で初期のがんを調べられるという検査のテレビCMを見て、そんな時代になったのかと驚きました。胃がんや大腸がんだけでなく、見つけにくいがんの可能性まで一度にチェックできるそうです。毎日トイレに流されていく排泄物は、実は身体のサインを受け取る大事なもののだと改めて感じました。私自身も、排泄から読み取れる身体の小さな変化を、これからはもっと丁寧に感じ取っていきたくと思いました。(セルバッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル **0120-57-1110**

トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN

2026 初夏号
Vol.120

発行所 株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2004 AMENITY INC. All rights reserved.

特集 トイレtpペーパー危機はなぜ繰り返されるのか

震災や感染症、世界情勢など、さまざまな危機が起きるたびに、店頭から真っ先に姿を消すものがあります。それがトイレtpペーパーです。生産は通常どおり続いているのに棚だけが空になる――。この現象は、なぜ繰り返されるのでしょうか。



危機 = 紙不足?

背景には、日本社会に根強く残る“歴史的な記憶”があります。1973年の第一次オイルショックです。中東情勢の緊迫化による原油価格の急騰で

社会不安が広がる中、「トイレtpペーパーがなくなるらしい」という噂が全国に広まり、店頭には長い行列ができました。実際には紙の生産が止まったわけではありませんでしたが、買い占めが買い占めを呼び、棚が空になる状況が各地で起きました。この出来事は象徴的なエピソードとして語り継がれ、世代を超えて「危機=紙がなくなる」という反応を呼び起こす土壌になっています。

繰り返される供給不安

実際の供給状況とは関係なく、「あつときみたいに紙がなくなるかもしれない」という連想が働き、不安が一気に高まってしまいます。




テレビのニュースやSNSで空になった棚が繰り返し映し出されました。(AIによるイメージ)

社会心理学的背景

こうした反応には、社会心理学的な背景もあります。人は「多くの人が行動しているらしい」と感じると、自分も同じ行動を取ろうとする傾向があります。これは“社会的証明”と呼ばれ、街頭インタビューやSNSで空の棚の写真が繰り返し目に入ることで、「買っておかないと自分だけ損をするかもしれない」という不安が強まります。また人は、自分の記憶の中で“思い出しやすい出来事”を根拠に判断してしまう傾向があります。これが「利用可能性ヒューリスティック」と呼ばれる心理です。オイルショックや震災のときに棚が空になった光景は、多くの人にとって強烈な記憶として残っています。そのため、危機のニュースを目にすると、

同じ構造はその後にも繰り返されました。東日本大震災では物流が一時的に止まり、店頭の棚が空になった写真がSNSで拡散しました。2020年の感染症流行時には、「海外の工場が止まるから日本の紙がなくなる」という誤った情報が広まりました。しかしその頃、メーカーの倉庫にはパレット単位で在庫が積み上がっていました。紙そのものが不足していたわけではありません。



製紙メーカー丸富製紙株式会社の公式X(旧Twitter)より

正確な情報把握の重要性

今回もまた、テレビの街頭インタビューで「中東情勢が不安なのでトイレットペーパーを買っておこうと思います」と語る人の姿が放送されていました。こうした声は視聴者に「多くの人が買い始めているのではないか」という印象を与えます。しかし、政府や業界団体は一貫して「供給に問題はない」と発信しています。経済産業省はホルムズ海峡封鎖を受けて発表した2026年3月9日のリリースで、トイレットペーパーのほとんどが国内生産であり、原料も国内で回収された古紙やパルプが中心で、中東情勢の影響を直接受けるものではないと説明しました。さらに、日本家庭紙工業会は「増産余力も十分にある」と発表。小売業界団体や日本DIY・ホームセンター協会も同様の声明を出し、正確な情報に基づいた冷静な購買行動を呼びかけています。

製紙メーカーの声

家庭紙メーカーの丸富製紙の担当者も「トイレットペーパーの原料は紙パルプや古紙ですので、原油の供給がトイレットペーパーの生産に直接的な影響を及ぼすことはありません」と話します。一方で、原油の供給不安に伴い、包装材や、包装材に印刷する際に使うインクの溶剤が確保しづらくなっているという新たな課題についても説明してくれました。そのため、「今後はフルカラー印刷を続けるのが難しくなり、単色印刷や無地包装に切り替える可能性がある」という見通しも語られています。つまり、紙そのものの供給は安定している一方で、紙以外の周辺資材の調達難や価格上昇が避けられず、トイレットペーパーの販売価格にも影響が出る可能性が高いというのが、現場の率直な見解です。

南海トラフ地震という

“本当のリスク”

一方で、例外的に“本当に供給が途絶える可能性があるケース”として南海トラフ地震が挙げられます。国内のトイレットペーパー工場の約4割が被害想定地域に集中しているためです。この点については、経済産業省も明確に説明しており、大規模災害が発生した場合には一時的に供給が滞る可能性があるとしています。ただし政府はすでに対策を掲げています。

他の紙製品の生産ラインをトイレットペーパーに転換することが可能であり、海外からの緊急輸入で不足分を補う仕組みも整備されています。経済産業省の説明では、こうした措置を組み合わせることで、全国的な供給はおおむね3カ月程度で回復できると見込まれています。つまり、最悪のケースでも“長期的な枯渇”には至らないというのが政府の公式見解です。

平時からの備蓄

だからこそ、私たちが日常的にできる備えがあります。一気に買うのではなく、日常の中で少しずつ備えておく“ローリングストック”です。いつもより1パック多めに家に置いておき、使ったら補充する。これだけで、次に“危機を感じさせるニュース”が流れても慌てずに済みますし、社会全体の混乱も防げます。トイレットペーパー危機は、紙が足りないから起きるわけではありません。不安が一気に広がり、物流の余白が吸収しきれなくなることで起きる現象です。本当に備えるべきリスクは、不要な買い占めによってものが無くなるというリスクではなく、南海トラフ地震のような製紙工場が直接被害を受ける大規模災害です。必要なのは「みんなが走り出してから買う」ことではなく、日常の中で備えておく習慣なのです。不足しているのは紙ではなく、私たちの“備えの余白”なのかもしれません。

南海トラフ被害想定と製紙工場分布

南海トラフ地震の被害想定区域で多くの製紙工場が操業しています。



※本記事は2026年4月3日時点の状況をもとにまとめています。日々情勢が動く中で、今後内容が変わる可能性があります。最新の情報もあわせてご確認ください。

1か月分の量は?

備蓄用トイレットペーパーの場合

150m巻きシングル 6ロール

- 芯なし・長巻きで作られており、一般的なトイレットペーパーの約半分のスペースで保管が可能。

一般的な市販品の場合

60m巻きシングル 15ロール

- 4人家族で15ロールが1ヶ月分の消費量です。※個人差があります。

トイレットペーパーの備蓄方法

従来型ストック

ローリングストック

「トイレの男女比」見直しへ 政府がガイドライン案をまとめる

今年3月、政府は駅や商業施設など不特定多数が利用する公共トイレについて、男女の便器数のバランスを見直す新たな考え方を示しました。ポイントは、利用者が男女同数の施設では『男性より女性トイレを多く設ける』という考え方に踏み出した点です。この指針案は、政府の「骨太の方針2025」に基づいて開催された有識者会議での議論を踏まえてまとめられたもので、女性の活躍を後押しする政策の一環として位置づけられています。背景にあるのは、以前かわや版でも取り上げた『女性トイレの行列問題』です。イベント会場や大型商業施設、駅のトイレなどで、女性側だけにできる長い列はおなじみの光景です。生理や着替え、メイク直し、子どもの付き添いなど、女性側は男性より3倍ほど時間がかかりますと言われており、同じ便器数では回転率に差が出てしまいます。今回の指針案では男女の利用時間の違いを考慮し、『便器数の平等』や『面積の平等』ではなく『処理能力の均等化』を図り、設計段階から女性側を多めに確保することを推奨するものです。

これは法的な義務ではなく『指針』にとどまりますが、国として方向性を明確にしたことで、今後の新設・改修計画にも影響していくと見られます。具体的には、利用者が男女ほぼ同数と想定される施設では、便器数は男性1に対して女性1.67と示されています。下の図は、鉄道駅のトイレの場合の、従来のトイレと指針案のトイレのレイアウト図をモデルケースとして比べたものです。一見すると女性トイレの面積がかなり広がった印象ですが、これで“処理能力の均等化”が図られているというわけです。すぐにトイレの増設が難しい場

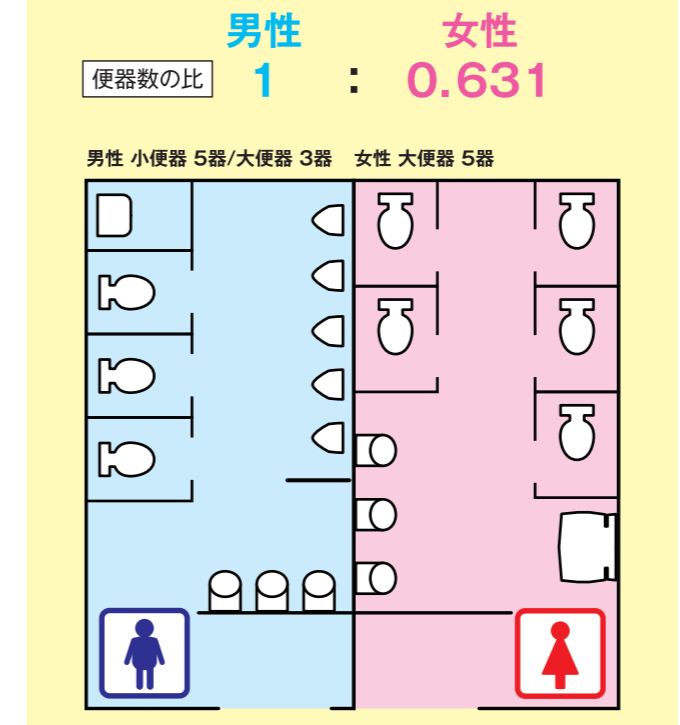


合でも、動線の見直しや空き状況の可視化など、現場でできる工夫も指針案には盛り込まれています。

一方で、近年は多目的トイレや男女共用トイレ、オールジェンダートイレなど、従来の「男女別」だけではない選択肢も増えています。高齢者や障がいをお持ちの方、子ども連れ、性的マイノリティの方など、トイレに求められる役割は多様化しており、「数」だけでなく「誰がどう使うか」を含めた設計が必要になっています。

今回政府が示した指針は意見公募(パブリックコメント)を経て正式発表される予定です。既存のトイレがすぐに新しい基準のトイレに変わるわけではありませんが、トイレの男女比をめぐる考え方が、大きく変わるきっかけになると考えられます。

従来の例



指針案の例

